

# Whenever Wherever Festival 2025

共生と社会と〈らへん〉

1秒に1秒進む time machine を  
一緒につくるとのこと

2025.2.1 [Sat]・9 [Sun]

## 開催情報

名称：Whenever Wherever Festival 2025 共生と社会と 〈らへん〉  
1秒に1秒進む time machine を一緒につくるとのこと

期間・会場：2025年

2月1日（土）10:00-18:30 | **SHIBAURA HOUSE** | 東京都港区芝浦 3-15-4

2月9日（日）11:30-19:10 | **リーブラホール** | 東京都港区芝浦 1-16-1 みなとパーク芝浦 1階

港区立男女平等参画センター

ほか

主催：一般社団法人ボディアーツラボトリー

共催：（公財）港区スポーツふれあい文化健康財団〔Kiss ポート財団〕 **KISSポ+財団**

チケット：一般：【1日券】3,000円、【2日セット券】5,000円

割引：【1日券】2,500円、【2日セット券】4,500円

\*1日券の場合は、チケットご購入時に来場日をお選びください | \*Peatixにて取扱いとなります。当日券はございません

\*割引対象者：港区在住、在勤、在学、または24歳以下および65歳以上の方（ご来場時、要証明書）

\*以下の特別プログラムは、ご参加方法が異なります。詳細はウェブサイトをご覧ください。

《ダンスタイムカプセル》お渡し会+埋める日（1月18日、芝の家、予約制）

《幽閉の劇場と8感のラップ》（2月5日・6日、港区内集合、応募選考制）

## スタッフ

WWFes2025 キュレーター：Aokid | 岩中可南子 | 五月めい | 西村未奈 | 山崎広太

ゲストキュレーター：木村玲奈 | たくみちゃん | チーム・チープロ | 宮下寛司 | 吉田拓

スタッフ：テクニシャン=河内崇 | 記録（写真・映像）=酒井直之

グラフィックデザイン=松本直樹 | ウェブサイト=中村泰之

制作=岩中可南子、林慶一

イントロダクション

## Whenever Wherever Festival 2025

共生と社会と〈らへん〉

### 港区の風景とダンスが共存する、パフォーマンス・フェスティバル

Whenever Wherever Festival (WWFes) 2025 は、東京都港区のパブリックスペースや、港区立の施設などの会場でおこなわれる、ダンス／パフォーマンス・フェスティバルです。

ダンサーや振付家を中心としたアーティスト・コレクティブが運営する WWFes は、多数のアーティストらと協働し、2009 年より開催。今回は、5 組 6 名のゲストキュレーターと共に、実験的なプログラムを展開します。

WWFes2025 では、2024 年 11 月より、区民センターなど港区の複数の場所を起点にワークショップやワークインプログレスが始動。その一部成果発表やショーケースで構成されたイベントを 2025 年 2 月に実施し、その後、トークシリーズで振り返りつつフェスティバルの可能性を掘り下げます。

WWFes は、場所と記憶と身体が浸透し、時空を越えて重なりあうような領域を、「周辺」を意味する〈らへん〉と名づけて主題化し、港区エリアで過去 2 回展開してきました。それは公園などの野外の場においても、新たなパフォーマンスの形態を見出そうとすると同時に、オルタナティブなプラットフォームを探る試みでもありました。

WWFes2025 の探求は、その延長上に位置します。最大公約数的なあり方に収まりきらない、周縁的なアーティストらによる、独自の身体表現を伴う作品や思考の交換を通して、共生や社会を捉え直そうとすること。その実験には、無数の異なる、固有の時空間が内包されているはずです。そうした非同期的な生が、包括的（インクルーシブ）ではない方法で同期する瞬間を想像し、掴みとるための手がかりとして、掲げたコンセプトが「1 秒に 1 秒進む time machine を一緒につくるといこと」です。

コンセプト

### 1 秒に 1 秒進む time machine を一緒につくるといこと

100 年後の未来でもなく、戻りたいあの瞬間にでもなく、1 秒に 1 秒、前にだけ進む time machine。わざわざつくらなくても、私たちは、すでに、1 秒に 1 秒進むタイムマシーンに乗って日々生活しているともいえるし、相対性理論によれば時速 300km の新幹線で東京から博多に移動すると、10 億分の 1 秒だけ先の未来に行くことになるらしい。そして、この先もしも光速移動による時空間のリープが可能になったとしても物理法則のなかでは時間軸を前方向にしか進めない。決して後戻りはできない。そんな同じ時間軸を移動するいわゆる「タイムマシーン」ではなく、全く新しい「time machine」を考えてみる。

複数の時間軸が切断と接続を繰り返し、ぐにゃぐにゃと絡み合いながら、毎秒、新しい時空間を繰り出していく装置。未来の記憶のトレースや、過去に点在する未来の re-imagination、自他の領域の攪拌を、今、この場所で、コレクティブな身体アクションに変換する装置。それは、たくさん練習して身体との同期率を上げなくちゃ効力を発揮しないマシンのようなものかもしれないし、街中を歩いたり走ったりすることで気軽に稼働する、伸縮自在のスニーカーのようなものかもしれない。あるいは、ウィルスのように、身体を媒介とする無数のマイクロ分子が、パブリックスペースを中心にじわじわと拡散しアクションを引き起こすか。異なるリズムや音波のバイブスが時空エネルギーを変容させていくグローヴ型もありそう。

動力は人々や場所が発する複数方向に走るエネルギーのネットワーク。時間がぎゅっと凝縮された living story で、あちこちがピコピコと点滅しだし、たくさんの差異の凹凸が、ぐるぐると勢いを加速させる。そんな、time machine づくりのプロセスを協働しながら、見たことのない 1 秒先に一緒にいることができたらいいなと思う。

プログラムの特徴

Program

- 01 | ダンスプロジェクト
- 02 | ショーケース

- 03 | ワークショップ発表
- 04 | トークシリーズ



《ダンスタイムカプセル》



《盆踊りアナーキー！》

01 | ダンスプロジェクト

《ダンスタイムカプセル》は、港区のコミュニティスペース芝の家に訪れる人々に、残したい言葉や記憶・物語を振付家・ダンサーの木村玲奈がヒアリングし、そこから振付を考え、それぞれの人に返す作品です。芝の家での《ダンスタイムカプセル》お渡し会+埋める日の後、リーブラホールで報告会をおこないます。

WWFes2023の《盆踊りアラウンドネス》に続くプロジェクト《盆踊りアナーキー！》(企画：西村未奈)では、アナーキーな要素が垣間見える盆踊りを学び、一緒に踊ってみることを通して、踊りの多様な在り方や振る舞いを巻き込む盆踊りの可能性を体感します。港区の盆踊りなどを参加者と一緒に踊り、WWFes独自の盆踊りの創作を試みた2023年に続き、港区観光大使で盆踊りの保存継承に尽力する北島由記子さん、名古屋を中心に盆踊りを頻繁に踊る田中瑞穂さんを企画アドバイザーに迎えます。

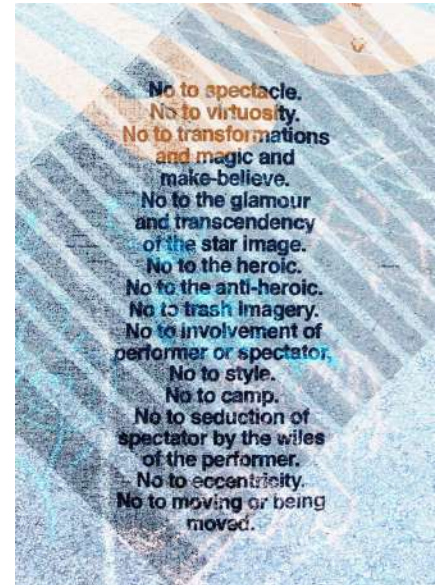
《幽閉の劇場と8感のラップ》(企画：西村未奈)は、夜の東京をドライブしながら身体感覚の拡張を試みる、各回1組限定の参加型パフォーマンスです。

- | 1.18 | 2.9 | 《ダンスタイムカプセル》木村玲奈
- | 2.1 | 《盆踊りアナーキー！》西村未奈、北島由記子、田中瑞穂 ほか
- | 2.5-6 | 《幽閉の劇場と8感のラップ》西村未奈、梅原徹、山川陸、レビュー／小説：河野咲子





《ウェンウェアダンス》



《Not about Judson in Tokyo》\*



《Not about Judson in Tokyo》出演・振付：神村恵\*\*、萩原雄太&王梦凡、黒田杏菜\*\*\*、山縣太一、アグネス吉井

Photo: \*イヴォンヌ・レイナー「ノー・マニフェスト」(1965) \*\*松本和幸 \*\*\*千葉絵理

## 02 | ショーケース

リーブラホールを新橋駅 SL 広場に見立てての《ウェンウェアダンス》(企画：山崎広太)では、行き交う人々や風景と共存しながら、他者の身体と共生している感覚と意識が伝播し、誰もが自然とコミュニケーションを取れるような、パブリックスペースにおける新しいパフォーマンスを開拓します。

あらゆるヒエラルキーを拒絶することでダンスの民主化を掲げた、1960年代ニューヨークのポストモダンダンスと、東京に暮らす私たちが「ダンスの民主化」を考えることは、どう繋がっているのか？そうしたテーマに基づき《Not about Judson in Tokyo》(キュレーター：WWFes2025)では、5組のアーティストが自身の生活や実践のアクチュアリティに沿ったパフォーマンスを提示します。

そのほか、吉田拓と WWFes2025 キュレーションによる、アップカミングアーティストのショーケース《new gen ショーケース》などをおこないます。

- | 2.1 | 《new gen ショーケース：side A》都路拓未、ジュリア・ファン [Julia Huang]  
(キュレーター：吉田拓)
- | 2.1 | 《View View しんばしぼしぼしんばし View》山崎広太、穴山香菜、三浦宏予、山野邊明香、長沼航
- | 2.9 | LIVE 《し～O～C～お～》Aokid、あだち麗三郎、酒井風、よだまりえ
- | 2.9 | 《ウェンウェアダンス》山崎広太、モテギミュ、鶴家一仁、黒沼千春、望月寛斗、堀田千晶、リエル・フィバク [Liel Fibak]
- | 2.9 | 《new gen ショーケース：side B》日比野桃子、岩田奈津季 (キュレーター：WWFes2025)
- | 2.9 | 《NEGAERI》ARICA [藤田康城 (演出)、安藤朋子 (出演)、山崎阿弥 (声)]
- | 2.9 | 《Not about Judson in Tokyo》神村恵、萩原雄太&王夢凡 (ワン・モンファン)、黒田杏菜、山縣太一、アグネス吉井

## Keyword

### Whenever Wherever Festival (WWFes) とは

ダンスアーティストらによるコレクティブが運営する身体芸術のフェスティバルです。アーティストが創造する環境自体を問い、創作プロセスや先鋭性を重視するプログラムを特徴とし、キュレーター制によって多くのアーティストがかかわってきました。

### 〈らへん〉とは

場所を身体が横断するとき、知覚や記憶を伴って場所周辺に形成される固有の環境を指して、フェスティバルのコンセプトに据えた言葉として、WWFes2021 より 〈らへん〉 (=アラウンドネス) を提示。



WWFes2023 《トライアングル・プロジェクト》(企画：山崎広太) より、旧ノグチ・ルーム、東京タワー\*、有栖川宮記念公園\*

Photo: Eri Saito





チーム・チープロ



たくみちゃん



《インターウニ勉強会 #2》



《どんなに街が発展しようと、このからだは人を見つけ挨拶とかをしたがるクルー》

### 03 | ワークショップ発表

チーム・チープロは、主に小学生を対象に、麻布子ども中高生プラザの屋上でローラースケートやインラインスケートのあたらしいすべりかたを探すダンスワークショップを企画しました。《ローラースケートダンスローラー》では、企画者、ゲスト講師・アーティストが出演し、ワークショップで見つけたすべりかたをもとにしたダンスを発表します。

たくみちゃんの《クラブに行く倶楽部》は、港区を中心にクラブ、参加者各々の職場、運河沿い、新橋駅前前で踊るフィールドワークを通して「ひとはなぜ踊るか」というテーマを探求してきました。SHIBAURA HOUSEでも踊りを通して引き続き探求し、展示も常設予定です。そのほか、港区の風景にアプローチした2つのワークショップの発表を実施します。

- | 2.1 | 《インターウニ勉強会 #2：港区で（自分なりの）生の形式を見つける》  
宮下寛司、ワークショップ参加者 [ワークショップゲスト講師：11.24 木村玲奈、1.13 super-KIKI]
- | 2.1 | 《どんなに街が発展しようと、このからだは人を見つけ挨拶とかをしたがるクルー》  
Aokid、畠中真濃・村上慧（ゲスト講師）、ワークショップ参加者
- | 2.1 | 《ローラースケートダンスローラー》穴山香菜、中屋敷 南、西本健吾、松本奈々子  
（企画：チーム・チープロ）
- | 2.1 | 《クラブに行く倶楽部》たくみちゃん、ワークショップ参加者



左：《蟻鱒鳶ルトーク——みんなで一緒に建てること》

右上段《TryDanceMeeting》 | 参考図版《ダサカッコワルイ・ダンス》2021（郡司ベギオ幸夫『やってくる』より着想、企画：山崎広太）\*

右下段：オンライントーク | 郡司ベギオ幸夫、柳澤田実、山崎広太

Photo: \*Natsuki Kuroda

## 04 | トークシリーズ

都市開発が進む港区・三田で、18年間「蟻鱒鳶ル（ありますとんびる）」のセルフビルドを続ける建築家の岡啓輔と、蟻鱒鳶ルダーズによる、即興ライブも交えたトーク《蟻鱒鳶ルトーク——みんなで一緒に建てること》（企画：西村未奈）では、蟻鱒鳶ルを作るために集まった人々の愉快で不思議なコミュニティにフォーカスします。

Aokidが継続して取り組む《TryDanceMeeting》は、その場に居合わせた人々と、ダンスに関する様々な視点を出し合って話してみる時間です。

イベント期間後の「オンライントーク」では、フェスティバルのコンセプトからその可能性をゲストとともに掘り下げるセッション（企画：五月めい）と、東京以外のさまざまな地域（秋田・神戸・金沢・神津島）でのダンス実践・継続のあり方を紹介し、エクステンジするセッション（企画：Aokid、西村未奈、福留麻里）をおこないます。

- | 2.1 | 《TryDanceMeeting》Aokid、参加者
- | 2.9 | 《蟻鱒鳶ルトーク——みんなで一緒に建てること》岡啓輔、蟻鱒鳶ルダーズ
- | 2.25 | オンライントーク《ダンスらへんの生息地図——リロケーション座談会 2025》  
ゲスト：加賀谷葵、小松菜々子、ちびがっつ！、角村悠野 ほか  
企画：Aokid、西村未奈、福留麻里
- | 3.1 | オンライントーク《共生と社会とくらへん》——理論編》（仮称）  
郡司ベギオ幸夫、柳澤田実、山崎広太

プログラム一覧

**2月1日 (土) 10:00-18:30 SHIBAURA HOUSE | 出入り自由**

港区で行なってきた3つのワークショップの発表と、参加型盆踊り企画のほか、  
2つの実験的ショーケースを実施。ディスカッション・ミーティングは飛び入り参加歓迎！

**10:00** ●公開ディスカッション | 《インターユニ勉強会 #2：港区で（自分なりの）生の形式を見つける》  
宮下寛司、ワークショップ参加者

**11:40** ●ワークショップ発表 | 《どんなに街が発展しようと、このからだは人を見つけ挨拶とかをしたがるクルー》  
Aokid、畠中真濃、村上慧、ワークショップ参加者

**12:35** ●ショーケース | 《new gen ショーケース：side A》  
都路拓未、ジュリア・ファン [Julia Huang] (キュレーター：吉田拓)

**13:30** ●ショーケース | 《View View しんばしばしんばし View》  
山崎広太、穴山香菜、三浦宏予、山野邊明香、長沼航

**14:25** ●ワークショップ発表 | 《クラブに行く倶楽部》たくみちゃん、ワークショップ参加者

**15:15** ●ミーティング | 《TryDanceMeeting》Aokid、参加者

**15:50** ●ワークショップ発表 | 《ローラースケートダンスローラー》  
穴山香菜、中屋敷 南、西本健吾、松本奈々子 (企画：チーム・チープロ)

**16:50** ●ダンスプロジェクト | 《盆踊りアナーキー！》西村未奈、北島由記子、田中瑞穂 ほか

**2月9日 (日) 11:30-19:10 リーブラホール | 出入り自由**

パブリックスペースでの新しいパフォーマンスを開拓するダンスプロジェクトなどの4つのショーケース、  
音楽 LIVE のほか、芝の家での作品創作の報告会、港区の特異な建築物「蟻鱒鳶ル」をめぐるトークを開催

**11:30** ●LIVE | 《し～O～C～お～》Aokid、あだち麗三郎、酒井風、よだまりえ

**12:20** ●ショーケース | 《ウェンウェアダンス》  
山崎広太、モテギミュ、鶴家一仁、黒沼千春、望月寛斗、堀田千晶、リエル・フィバク [Liel Fibak]

**13:00** ●ショーケース | 《NEGAERI》ARICA [藤田康城 (演出)、安藤朋子 (出演)、山崎阿弥 (声)]

**13:35** ●ダンスプロジェクト | 《ダンスタイムカプセル》木村玲奈

**14:25** ●ショーケース | 《new gen ショーケース：side B》日比野桃子、岩田奈津季 (キュレーター：WWFes2025)

**15:20** ●トーク | 《蟻鱒鳶ルトーク——みんなで一緒に建てること》岡啓輔、蟻鱒鳶ルダース

**16:50** ●ショーケース | 《Not about Judson in Tokyo》神村恵、萩原雄太&王梦凡、黒田杏菜、山縣太一、アグネス吉井

※ほか、特別プログラム(1.18、2.5-6)、オンライントーク (2.25、3.1) 開催。